

# [ 横浜美術館 ]

## 平成 2 5 年度業務計画及び収支予算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

文中の事業欄において、  
：主催事業。：共催事業  
を示します。  
文中の達成指標欄において、  
：定量的指標。：定性的指標  
を示します。

### 1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m <sup>2</sup> ・26,829 m <sup>2</sup>
開館日	平成元年11月3日

### 2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区北仲通4-40 商工中金ビル5階
設立年月日	平成20年4月1日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

### 3 基本方針

#### (1) 基本的な方針

『第二期指定管理事業計画書』のとおり、平成25年度から10年間にわたり、「発信力の強化」「教育プログラムの強化」「市民とつながるプログラムの強化」「営業力の強化」「経営基盤と人材の強化」の5つの重点項目を定めて、次に掲げる美術館を目指します。

- ・市民の誰もが美術に親しみ、多くの市民に「観る」「創る」「学ぶ」機会を提供することにより、市民の創造性を育み、心豊かで活力に満ちた生活の実現に貢献する美術館。
- ・世界各国の美術館や美術関係者などとのネットワークの強化や国際交流を促進するとともに、横浜独自の魅力的で質の高い美術文化を国内外に発信することにより、国際都市横浜の魅力とアイデンティティの確立に貢献する美術館。
- ・市民、学校、NPO、企業等の様々な立場や年代、属性を持つ人々と協働することにより、市民から親しまれ、市民が集う、地域に開かれた美術館。
- ・未来を担う子どもたちの創造性を育むため、地域の学校や大学などと連携した取組みを進め、文化芸術教育の中心的な役割を担う美術館。

(2)平成 25 年度の位置づけ

<p>第二期指定管理期間中期一期(H25-27)の初年度にあたる平成 25 年度は、長期計画達成に向けた始動と基盤整備の時期と位置づけ、次に掲げる政策目標の達成を目指し、各取組みを実施します。</p> <p><b>【経営】</b>                  政策目標〈経営〉 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します。</p> <p><b>【事業】</b>                  政策目標〈事業①〉 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。                  政策目標〈事業②〉 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。                  政策目標〈事業③〉 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。</p> <p><b>【運営】</b>                  政策目標〈施設運営①〉 お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。                  政策目標〈施設運営②〉 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。</p> <p><b>【その他】</b>                  政策目標〈その他の業務〉 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。</p>
--

4 経営に関する計画

(1)横浜美術館が国際都市横浜の魅力を牽引するための取組み

ア 個性の発揮と創造・挑戦的な取組み

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館ならではの個性を明確にし、集客力とともに、発信性を高めます。</li> <li>・異なるジャンルとの連携、社会に対する美術のあり方の提起など、創造性、発信性を発揮します。</li> <li>・組織横断的で複眼的な視点を持ち、「すべての人に開かれた美術館」を目指します。</li> </ul>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野の拡大する展覧会の開催</li> <li>● 市民協働</li> <li>● 地域社会や市民生活に貢献する事業の実施</li> <li>● おもてなしの心の徹底とリピーター獲得への事業の実施</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 企画展 4 回/年 コレクション展 3 期/年                      ※詳細は企画展については 5-(1)-ア、コレクション展については 5-(2)-ア-(ウ)を参照</li> <li>□ ボランティア育成 約 60 人/年</li> <li>□ NPO 等との協働 2 団体/年                      ※詳細は 5-(3)-ア-(エ)参照</li> <li>□ 6 事業/年                      ※詳細は 5-(3)-イ参照</li> <li>■ ビジターサービスチーム設置、研究と計画実施                      ※詳細は 6-(1)-ア参照</li> </ul>

イ 都市戦略との連携

[目指す成果／アウトカム]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造都市形成や、シティーセールス、観光プロモーションと連携した事業を組織横断的に展開し、横浜市の都市戦略に寄与します。</li> <li>・当館を取り巻く市場の構造、市民の生活行動様式や芸術文化に対するニーズに関するマーケティング戦略の再構築を実現します。</li> </ul>	
[取組内容]	[達成指標]
●展覧会の開催にあわせた、みなとみらい 21 地区に貢献できるイベント開催	<input type="checkbox"/> 2 回/ 年
●フォト・ヨコハマ、クラシック・ヨコハマなど横浜市が推進する事業との連携	■ 随時
●横浜市のコンベンション誘致に協力したレセプション会場などとしての活用	■ 随時
●当館の特色ある概観や敷地を有効活用したフィルム・コミッションへの積極的な協力	■ 随時
●展覧会の会期中に来場者アンケートを実施して有効回答各 500 通を収集して分析	<input type="checkbox"/> 1 回/企画展
●展覧会終了後にデブリーフィング実施	<input type="checkbox"/> 1 回/企画展

#### ウ 専門性を活かしたネットワークの強化

[目指す成果／アウトカム]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの対応など、財団内専門館施設の共通課題について、横断的に実施し、特定ジャンルからパイロット的に実施するなど、総合的に寄与します。</li> <li>・当館が築いてきた美術家や、事業者、NPO、ボランティア、大学などとの協働・連携体制を一層拡大・深化させていきます。</li> </ul>	
[取組内容]	[達成指標]
<u>専門館連携</u>	
●美術館という特別な拠点・空間を活かして、また他の専門館とも連携して、様々な芸術のイベント・ウィークの開催	■ 来年度実施にむけて企画立案
●「プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年」にて横浜みなとみらいホールと連携した関連事業検討	<input type="checkbox"/> 1 回/年
●岡倉天心生誕 150 年・没後 100 年記念事業にて横浜能楽堂などと連携した関連事業検討	<input type="checkbox"/> 1 回/年
●財団中期経営計画 2011-2013「子ども事業企画会議」への参加と関係者への情報共有、特に「ヨコハマ・コドモ・アートナビ」などを通じ効率的な広報実施	<input type="checkbox"/> 3 会議/年
<u>館外との連携</u>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティア育成、市民とのフラットなコミュニケーション、横浜美術館コレクション・フレンズを通じて実現する市民協働</li> <li>● 横浜市、NPO 法人などとの連携を深め、美術館におけるエデュケーション事業を発展させた地域社会や市民に貢献する事業</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 3 事業/年 ※詳細は 5-(3)-ア-(エ)参照  <input type="checkbox"/> 6 事業/年 ※詳細は 5-(3)-イ参照
---	--

エ 広報・連携体制の充実・強化

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、当館の発信のため、戦略的に展開します。</li> <li>・ 当館を支えていただいている市民やメディアと、信頼と支援の関係性をより強固に形成します。</li> </ul>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「近隣から始まる来館者の拡大」を目標に、「近隣アートプログラム」を実施</li> <li>● ウェブサイトへのアクセスも横浜美術館へのビジターと捉え、ウェブコンテンツ、ウェブサイトでの視聴覚プログラムの配信、メルマガやオンラインショッピングなどを通じて来館を促す手法開発</li> <li>● メディア関係者との交流会と意見交換会</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <input type="checkbox"/> 4 回/ 年  ■ 3 月 ホームページ全面リニューアル  <input type="checkbox"/> 1 回以上/年

オ 経営基盤の強化と長期的・継続的な検証の実施

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の安定的な実施と適切な施設管理に資する健全な収支維持のため、各事業のマーケティングの強化や外部資金の導入などにより、自主・自律的な組織運営を目指します。</li> <li>・ PDCA サイクルを様々なレベルで機能させ業務品質管理を高めます。</li> </ul>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主財源の開拓</li> <li>● 事業評価制度の運用</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <input type="checkbox"/> 3 種/年 ※詳細は 6-(2)-ウ参照  <input type="checkbox"/> 4 種/年 ※詳細は 7-(1)-イ参照

カ 市との政策協働の着実な推進

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 年のビジョンを実現するために、市と当館の政策協働体制を確立し、相互のやり取りによって、より有効な政策・施策や事業を検討するとともに、文化芸術以外の他の政策との連携などを進めます。</li> </ul>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 政策協働による指定管理</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> ■ 政策経営協議会および指定管理者選定評価委員会への参加と各種意見の事業への反映

5 事業についての計画

(1)質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げるための取組み

ア 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野の拡大

[目指す成果／アウトカム]

- ・ 独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく実施します。
  - ・ 集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し共催します。
  - ・ 質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回させていきます。
- 以上を行うことで、質の高い文化活動を実現し、来館者の裾野を拡大します。

[取組内容]

展覧会

●Welcome to the Jungle

【4月13日(土) - 6月16日(日)】

シンガポール美術館と共同企画し、東南アジア8ヶ国の多様な歴史と文化、近年の社会的・政治的な問題を考察した東南アジアの作家25名の現代美術を取上げる展覧会。

同館のコレクションを核に双方のキュレーターとの協働で構成された、国際交流、コラボレーション事業として実施。

●プーシキン美術館展 フランス絵画 300年

【7月6日(土) - 9月16日(月・祝)】

ロシア屈指の規模と収蔵内容を誇る、モスクワのプーシキン美術館のコレクションの中核をなす、印象派の作品を含むフランス絵画の傑作を体系的に紹介する展覧会。

朝日新聞社との共催により、幅広い広報展開、多くの集客による地域の賑わい創出を実現。

●岡倉天心生誕150年・没後100年記念／『國華』創刊125周年記念事業 横山大観展：よき師、よき友—紫紅、未醒、芋錢、溪仙

【10月5日(土) - 11月24日(日)】

大正時代に焦点を当て、横山大観が日頃親しく交わった個性豊かな画家たちとの相互関係に着目することにより、横山大観の、明治時代には見られなかった新感覚溢れる作品が生み出された背景を探るとともに、その魅力を

[達成指標]

□目標入場者数：20,000人

□目標入場者数：230,000人

□目標入場者数：70,000人

<p>伝える展覧会。 横山大観記念館の協力の下、協同で調査研究したコラボレーション事業として実施。 また共催者である朝日新聞社と対等出資して十分な予算規模を確保し、広報効果を高め集客を実現。</p> <p>●岡倉天心生誕 150 年・没後 100 年記念／『國華』創刊 125 周年記念事業 生誕 140 年記念 下村観山展</p> <p>【12月7日(土) - 2月11日(火・祝)】</p> <p>本市ゆかりの日本画家・下村観山の生誕 140 年を記念し、調査に取り組み、代表作を含む館の独自企画としての回顧展。</p> <p>「天心サミット」と連携し、相互広報実施。</p>	<p>□目標入場者数：30,000 人</p>
--	-------------------------

イ 若手のアーティストの創作支援と発信

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートギャラリーやグランドギャラリーを活用して、有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援します。</li> </ul> <p>以上を行うことで、有望な若手アーティストの創作活動を支援します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p>●若手作家支援事業</p> <p>将来の横浜トリエンナーレの作家選定に資することを前提に、横浜トリエンナーレ組織委員会と連携し、ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストを独自の視点で選出し、アートギャラリーやグランドギャラリーでその作品を紹介</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：3,000 人</p> <p>■4-5 月 作家選定 10-3 月の間 展覧会開催</p>

ウ 横浜トリエンナーレへの取組み

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館において開催される横浜トリエンナーレ 2014 の基盤整備・プレ事業開催に全館体制で取り組みます。</li> <li>・選定されたディレクターのもとテーマに沿って調査を継続し作家と作品選定を進めます。</li> <li>・必要に応じて記者会見を実施し、事前告知に努めます。</li> <li>・プレ企画として国際展のあり方を問うシンポジウム等を開催し、広く市民に認知されるよう取り組みます。</li> <li>・国際的なネットワークを構築するため、専門家やアーティストの人的交流を促します。</li> </ul> <p>以上を行うことで、横浜トリエンナーレ事業を横浜美術館の発信力の柱のひとつとしていきます。</p>
---

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際交流に資するシンポジウム</li> <li>●現代美術と市民協働に関するワークショップ</li> <li>●国内外調査・研究、ネットワーク形成</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□1回/年</li> <li>□1回/年</li> <li>□調査出張 海外6回程度/国内20回程度</li> </ul>
--	--

(2) 魅力あるコレクションを形成し、活用するとともに未来に継承するための取組み

ア 魅力あるコレクションの形成、活用と未来への継承

(ア) コレクションの形成

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させます。</li> </ul>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今後の中期的な収集の方向性検討</li> <li>●3か年ごとの収集計画策定</li> <li>●横浜トリエンナーレの機会を活かした、話題性のある現代美術作品の収集提言</li> <li>●内部検討委員会、横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会を経た適正な収集方法</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■7月 美術館内にて案検討</li> <li>8月 市と協議</li> <li>11月 内部検討委員会等で報告</li> <li>■7月 横浜トリエンナーレの開催年(平成26年)を念頭に入れ、収集計画案を立案</li> <li>■7月 横浜ゆかり作家の収集計画を立案</li> <li>■10月 内部検討委員会 1回/年</li> <li>11月 横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会 1回/年</li> </ul>

(イ) コレクションの継承

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫内の環境を整え、作品の材質に適した状況で作品を安全に保存します。</li> <li>・作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所を整備し、コレクションを確実に管理します。</li> </ul> <p>以上を行うことで、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●収蔵庫の満杯状態を改善するための新蔵置方法提案</li> <li>●収蔵作品台帳をもとにした収蔵品目録の印刷物を作成</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■8-9月 蔵置案を策定</li> <li>11月 モニタリングや内部検討委員会において提案</li> <li>■前年度の新収蔵品の目録刊行 1回/年</li> </ul>

(ウ) コレクションの活用

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として年2～3回コレクション展を開催します。</li> <li>・来場者が作品に親しみ、鑑賞を深められるよう、展示構成やテーマ展示などを工夫します。</li> </ul>
--

- ・人気の高い作品を展示する一方で、様々なテーマを立てて、1万点近いコレクションのなるべく多くを展示し、特に新収蔵作品は迅速に展示公開します。
  - ・同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示をし、来館者の作品理解を深める工夫をします。
  - ・質の高い鑑賞体験を確保できるよう、展示方法や展示室の環境整備と情報提供に工夫をします。
  - ・コレクションをベースにする企画展を開催するほか、コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催をオファーします。
- 以上を行うことで、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献します。

<p>[取組内容]</p> <p><u>展覧会</u></p> <p>●コレクション展 I 【平成 25 年 4 月 13 日(土) - 6 月 16 日(日)】 特集展示：賛美小舎 上田コレクション 一括寄贈を受けた上田コレクションをまとめて初公開</p> <p>●コレクション展 II 【平成 25 年 7 月 6 日(土) - 9 月 16 日(月)】 特集展示：フランスの近代絵画と版画 サカタのタネ創業 100 周年に連動し、坂田コレクションを紹介、大佛次郎記念館と連携した展示を実施</p> <p>●コレクション展 III 【平成 25 年 10 月 5 日(土) - 平成 26 年 2 月 11 日(火・祝)】 特集展示：明治の洋画</p> <p><u>その他</u></p> <p>●コレクションによるパッケージ展</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：23,800 人</p> <p>□目標入場者数:234,300 人</p> <p>□目標入場者数:106,900 人</p> <p>■10 月 企画案、国内外の提案先(候補)を策定 11 月 打診開始</p>
--	---

イ モノとしての「美術情報」の収集、保管、活用

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>・デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p>●企画展等事業連動した特集公開</p> <p>●横浜トリエンナーレ情報集積とアーカイヴ化</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□特集コーナーの設置 4 回/年</p> <p>■4-5 月 横浜トリエンナーレのための調査で得られた作家・作品資料を学芸グループで分類・アーカイヴ化フロー確</p>



●映像資料公開	<p style="text-align: center;">定</p> <p>7月 開始</p> <input type="checkbox"/> 美術情報センターにおけるビデオ・ライブラリーの利用：30件 <input type="checkbox"/> 映画や映像作品の公開 1回/年
---------	--

ウ 美術館活動の基礎としての調査・研究

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>・コレクション、企画展、教育普及、マネジメントなどあらゆる美術館活動の基礎として調査・研究を位置づけ、その成果を事業に反映して美術館活動の質を向上させると同時に、紀要などにまとめて社会に還元します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p>●紀要発行、関係機関に配布</p> <p>●テーマを設定し、コレクションおよび企画展のための調査研究実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>研究紀要の発行(論文3本) 1回/年</p> <p><input type="checkbox"/>・コレクションおよび企画展についての研究 21項目</p> <p>・トリエンナーレに関する研究7項目</p> <p>・ミュージアム・エデュケーションについての研究22項目</p> <p>・美術情報に関わる研究1項目</p>

(3)美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝える取組み

ア 多様な市民が鑑賞、創作を楽しむことができるプログラム

(ア) 鑑賞サポート事業

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>・平成25-27年度でコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化に着手します。</p> <p>・子どもを対象とした鑑賞プログラムの開発に学校と連携して取組みます。</p> <p>以上のように鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たします。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p><u>鑑賞サポート事業</u></p> <p>●コレクションを活用した鑑賞サポート</p> <p>●ギャラリートーク</p> <p>●ギャラリートーク</p> <p>●手話通訳付きギャラリートーク</p> <p style="text-align: center;">※再掲：5-(3)-イ 美術館アクセス・鑑賞サポート事業</p> <p>●学芸員や収蔵作家によるレクチャー</p> <p>●鑑賞ワークショップ</p> <p>●視覚に障がいのある人とない人が共にた</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>10回/年</p> <p><input type="checkbox"/>1回/年</p> <p><input type="checkbox"/>1回/コレクション展</p> <p><input type="checkbox"/>1回/コレクション展</p>

<p>のしむ鑑賞会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●造形体験の取入れ ※再掲：5-(3)-ア-(ウ)</li> <li>●敬老フェスタ(仮称)</li> <li>●鑑賞サポートシートの作成 ※再掲：5-(3)-イ 美術館アクセス・鑑賞サポート 事業</li> </ul> <p>●企画展鑑賞サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ギャラリートーク</li> <li>●講演会等</li> <li>●鑑賞ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>●鑑賞ワークショップ</li> <li>●夜の美術館でアートクルーズ</li> <li>●造形体験の取入れ ※再掲：5-(3)-ア-(ウ)</li> </ul> </li> <li>●鑑賞サポートツール <ul style="list-style-type: none"> <li>●親子向け「鑑賞サポートシート」作成</li> <li>●音声ガイド作成</li> </ul> </li> </ul> <p><u>子ども対象鑑賞サポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人向け鑑賞講座 ※再掲：5-(3)-ア-(イ) 個人向け 2講座</li> <li>●学校プログラムと連動した鑑賞プログラム ※再掲：5-(3)-ア-(イ) 学校プログラム</li> <li>●夏休み子どもフェスタ</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>1 講座/年</p> <p><input type="checkbox"/>1 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>5 作品/年</p> <p><input type="checkbox"/>2 回/企画展</p> <p><input type="checkbox"/>平均 2 回/企画展</p> <p><input type="checkbox"/>1 回/企画展</p> <p><input type="checkbox"/>2 回/企画展</p> <p><input type="checkbox"/>1 講座/年</p> <p><input type="checkbox"/>1 回/企画展</p> <p><input type="checkbox"/>2 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>4 講座/年</p> <p><input type="checkbox"/>4 校/年</p> <p><input type="checkbox"/>1 回/年 (*H23 実績：1 回)</p>
---	---

(イ) 創造支援事業 子どものアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの内的発達を支援するとともに、美術および美術館に親しむきっかけを提供します。</li> <li>・学校と連携し、造形、美術教育に取り組めます。</li> </ul> <p>以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、造形活動を通して子どもの自立を支援します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>●造形プログラム：横浜市内の小学校、幼稚園・保育園、養護・特別支援学校・区毎の個別支援学級合同、各種学校を対象に実施</li> <li>●鑑賞プログラム：小学 4, 5, 6 年生を対象に実施</li> </ul> </li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>90 校/年 (*H23 実績：89 校 (1 校キャンセル))</p> <p><input type="checkbox"/>4 校/年</p>

<p>※再掲：5-(3)-ア-(7) 子ども対象鑑賞サポート</p> <p>●個人向け造形講座</p> <p>※再掲：5-(3)-ア-(7) 子ども対象鑑賞サポート2講座</p> <p>●親子のフリーズゾーン</p>	<p>□22 講座/年 (*H23 実績：22 講座)</p> <p>□定員の 80%以上の参加者</p> <p>□36 回/年</p>
--	--

(ウ) 創造支援事業 市民のアトリエ

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作体験をきっかけに美術に親しむ市民の裾野を広げるとともに、市民の創作活動を支援します。</li> <li>・創作体験を鑑賞につなげるワークショップを行い、作品鑑賞への興味を広げます。</li> <li>・若手アーティストを講師とするワークショップを開催し、新しい表現の魅力を市民に伝えると同時に作家支援につなげます。</li> </ul> <p>以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p>●ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が美術に親しむためのワークショップ</li> <li>・創作体験を鑑賞につなげるワークショップ</li> <li>・若手アーティストによるワークショップ</li> </ul> <p>※再掲：5-(3)-ア-(7) 鑑賞ワークショップ(コレクション展、企画展) 各1講座</p> <p>5-(3)-イ 学校教育連携事業 2講座、環境啓発事業 1講座</p> <p>●オープンスタジオ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□30 講座/年 (含：若手アーティストによるワークショップ 15 回)</p> <p>□定員の 80%以上の参加者</p> <p>□25 コース/年 (*H23 実績：20 コース)</p> <p>□定員の 80%以上の参加者</p>

(エ) 市民協働

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエや美術情報センターでの運営ボランティアに加え、展覧会鑑賞パートナーを育成します。</li> <li>・美術館の運営や事業を市民とのフラットなコミュニケーションを通じて展開します。</li> <li>・市民の力を取り込んだ横浜美術館コレクション・フレンズは、その参加費をコレクション作品の展示・鑑賞、双方向的な交流、緊急を要する修復や備品などの購入に活用します。また、美術館協力会と連携し、双方の拡大を狙います。</li> </ul> <p>以上のように、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくります。</p>
---

<p>[取組内容]</p> <p><u>ボランティア</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子どものアトリエ親子のフリーゾーン運営ボランティア育成</li> <li>●美術情報センター運営ボランティア育成</li> <li>●鑑賞パートナー(鑑賞サポート事業を支え、様々な来館者ととも鑑賞の喜びを分かち合うボランティア)育成</li> </ul> <p><u>フラットなコミュニケーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学芸員 0B、観光業 0B などとの連携によるおもてなしの心育成</li> <li>●横浜シティガイド協会などとの連携による横浜観光促進</li> <li>●原三溪生誕 150 年に向けた原三溪研究会との共同研究</li> </ul> <p><u>フレンズ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成 25 年度横浜美術館フレンズ募集</li> <li>●平成 25 年度フレンズ会員向けプログラムの実施</li> <li>●協力会との共同レセプションデスクの設置</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>約 30 人/年</p> <p><input type="checkbox"/>10 人/年</p> <p><input type="checkbox"/>20 人/年</p> <p>■平成 26 年 4 月実施をめざしプログラムの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4-9 月 事例調査</li> <li>・ 10-12 月 関係者意見交換</li> </ul> <p>■平成 26 年 4 月実施をめざし連携プランの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4-9 月 事例調査</li> <li>・ 10-12 月 関係者意見交換</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>1 回/月開催</p> <p><input type="checkbox"/>参加数 120 口 (H23 実績 : 127 口)</p> <p><input type="checkbox"/>8 回/年</p> <p>■平成 26 年 4 月実施をめざし運用のプランニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 月 関係者意見交換</li> </ul>
--	---

イ 地域社会や市民生活に貢献する取組み

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>・平成 25-27 年度には、横浜市、学校、関連機関、NPO 法人などとの連携を深めるとともに、市民との協働を充実させ、美術館におけるエデュケーション事業を地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていく足がかりとします。</p> <p>以上のような事業を通じて、障がい者、高齢者、外国人など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p><u>美術館アクセス・鑑賞サポート事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●視覚に障がいのある人と一緒につくる収蔵品鑑賞サポートプランの作成(「平成 25 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」申請予定)</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>1 プロジェクト/年</p>

<p>サポートシートの作成、視覚障がい者向けの音声ガイドや、ホームページの検討等 ※再掲：5-(3)-ア-(7) 鑑賞サポート事業</p> <p>●福祉関係機関、NPO 法人等と連携した、コレクション鑑賞サポート事業</p> <p>●NPO との連携による手話通訳付きギャラリートークの開催 ※再掲：5-(3)-ア-(7) 鑑賞サポート事業</p> <p>●福祉機関との連携による、鑑賞パートナー向けバリアフリー研修の実施</p>	<p><input type="checkbox"/>1 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>1 回/年</p>
<p><u>学校教育連携事業</u></p>	
<p>●アートティーチャーズ・デー</p> <p>●夏休み子どもフェスタにおける教師ボランティア受入</p> <p>●横浜市芸術文化教育プラットフォーム受入</p> <p>●大学連携</p> <p>●横浜美術大学と連携したワークショップ ※再掲：5-(3)-ア-(7) ワークショップ</p> <p>●城西国際大学と連携した展覧会ウェブサイト構築</p>	<p><input type="checkbox"/>1 回/企画展、1 回/コレクション展</p> <p><input type="checkbox"/>10 人/年</p> <p><input type="checkbox"/>2 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>2 講座/年</p> <p><input type="checkbox"/>6 回/年</p>
<p><u>環境啓発事業</u></p>	
<p>○横浜市環境創造局との連携による、横浜みどりアップ・ワークショップ開催 ※再掲：5-(3)-ア-(7) ワークショップ</p>	<p><input type="checkbox"/>1 講座/年</p>
<p><u>病院・福祉施設へのアウトリーチ</u></p>	
<p>●病院・福祉施設へのアウトリーチ</p>	<p><input type="checkbox"/>1 回/年</p>
<p><u>企業とともに社会に貢献する事業</u></p>	
<p>●企業連携プログラム《Heart to Art》によるアウトリーチ</p>	<p><input type="checkbox"/>2 回/年</p>
<p><u>美術や教育活動を支える人材育成事業</u></p>	
<p>●博物館実習</p> <p>●子どものアトリエ インターンシップ</p> <p>●子どものアトリエ 教師のためのワークショップ</p> <p>●各種研修受入れ</p>	<p><input type="checkbox"/>1 回/年</p> <p><input type="checkbox"/>約 5 人/年</p> <p><input type="checkbox"/>2 回/年 (*H23 実績：夏春各 2 日/年)</p>

●大学生による職場研修 ●保育士、教師を対象とした研修	□約 15 人 ■随時
--------------------------------	----------------

## 6 施設の運営に関する計画

(1)お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行うための取組み

ア おもてなしの心の徹底とリピーターの獲得

(ア) 横浜美術館におけるビジターサービスの取組み

[目指す成果／アウトカム]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の高い満足度をめざし、美術館に来てよかった、また来たいと思っただけけるよう運営し、障がい者、高齢者や乳幼児をお連れのお客様、外国人など様々な来館者ニーズへ対応します。</li> <li>平成 25 年度は研究と計画、平成 26 年度をスタッフの養成と準備、平成 27 年度をスタッフの OJT と試行の年と位置づけます。</li> </ul>	
[取組内容]	[達成指標]
<u>拠点確立</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ビジターサービスの拠点を、来館者がアクセスしやすいスペースを活用して設営（アートギャラリー2 など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■下半期 施工</li> </ul>
<u>おもてなし</u> <u>ホスピタリティの向上(新サービス開発)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人の希望者に向けた鑑賞前レクチャー、鑑賞後ワークショップ定期開催</li> <li>●希望に応じて団体鑑賞前レクチャー実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□平成 26 年 4 月 サービス本格開始にむけて検討</li> <li>■随時</li> </ul>
<u>アメニティの向上</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>●無料でダウンロードできる横浜美術館アプリなど鑑賞サポートツールの開発</li> <li>●駅から美術館への動線へのサイン設置、グランドギャラリーの演出、備品リニューアルによる快適な周辺環境の整備</li> <li>●横浜市の観光案内所と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□1 例実施/年</li> <li>■6 月 みなとみらい駅にサイン設置</li> <li>■グランドギャラリー演出 1 回/企画展</li> <li>■10 月 備品リニューアル</li> <li>■平成 26 年 4 月実施をめざしサービスの立案と運用の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4-9 月 事例調査</li> <li>・10-3 月 立案</li> </ul> </li> </ul>
<u>アクセシビリティの向上</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>●条例以外の減免・無料措置などソーシャルインクルージョンへの取組み</li> <li>●高齢者、外国人、障がいをもつ方々が利用しやすい美術館となるためのサイン計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■随時</li> <li>■平成 26 年 4 月実施をめざしサインマニュアルの検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4-9 月 事例調査</li> </ul> </li> </ul>

<p><u>来場者コミュニケーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PDCA サイクルによる迅速・適切なクレーム対応を行うお客様目線の運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>●顧客サービス員、電話、ホームページなどを通じて寄せられたご意見への迅速な一次対応</li> <li>●重要なお意見について、報告書による館内共有、モニタリングによる市共有によりお客様対応改善</li> </ul> </li> </ul> <p><u>休館日および開館時間</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●集客の見込める展覧会期間中の臨時開館日設定</li> <li>●企画展の関連イベント開催時などには夜間開館も実施</li> </ul> <p><u>レクチャーホール</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●レクチャーホール貸出の利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き状況をホームページに掲載</li> <li>・平日練習プランの運営</li> </ul> </li> </ul> <p><u>チケット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●チケット入手容易化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前売券の販売</li> <li>・企画展の規模に応じた販路拡大</li> </ul> </li> </ul>	<p>・10-3月 立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■原則、48時間以内の一次対応</li> <li>■館内共有 随時</li> <li>■モニタリング原則1回/月</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>2日/年</p> <p><input type="checkbox"/>2回/年</p> <p><input type="checkbox"/>稼働率 70%</p> <p><input type="checkbox"/>前売券販売開始 2か月前</p> <p><input type="checkbox"/>館外販売 1か所以上/展覧会</p>
---	--

(イ) 館内サービスの充実

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>・展覧会や教育普及といった主要事業に加え、ミュージアムショップやカフェなどの周辺事業でも、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指します。</p>	
<p>[取組内容]</p> <p><u>ミュージアムショップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●展覧会関連商品、当館ならではのユニークな商品提供</li> <li>●遠方のお客様を中心としたニーズに応えるためのオンラインショップ運営</li> <li>●オンラインショップ活性化のためのホームペ</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>企画展特設コーナー設置 1回/企画展</li> <li><input type="checkbox"/>コレクション活用オリジナル商品開発 1商品/年</li> <li><input type="checkbox"/>掲載点数 200点/年</li> </ul>

<p>ー ジ活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●季節に合わせた特設ウェブサイトを設置</li> </ul> <p>café 小倉山</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●展覧会と連携した限定メニューの開発</li> <li>●カフェ機能を活用した観客誘致事業や近隣施設連携事業などを展開</li> </ul>	<p>□3回/年</p> <p>□6種/年</p> <p>□1回/企画展</p>
--	--

イ 施設の適切な維持管理

(ア) 施設の長寿命化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●過去改修データの洗い出しと今後の改修計画提案など長寿命化に向けた準備を横浜市とともに実施</li> <li>●お客様の安全と安心を第一に、適切かつ丁寧な保守・点検業務等、故障や破損への迅速な対応</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■不具合が発生した場合に迅速な対応、横浜市と情報共有。新たな改修はデータを整理して保存し今後の改修計画に活用。</li> <li>■不具合発生時は文書で情報を共有するとともに必要な措置を実施。経過は横浜市と共有。</li> </ul>
--	--

(イ) 災害時など非常時の対応

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループ長以上を中心に緊急レベルに応じた適切な指示系統と対応方法構築、バックアップ体制を含めた危機管理体制整備</li> <li>●自然災害やテロ、感染症などの発生時を想定した「横浜美術館危機管理マニュアル」を整備、共有</li> <li>●様々な災害を想定した訓練を所轄消防署と連携実施</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■危機管理マニュアル及び緊急連絡網を作成。管理職の出勤はシフト表を作成、共有し責任体制を明確化。</li> <li>■最新の危機管理マニュアルを館内で共有</li> </ul> <p>□防火・防災訓練 2回/年</p>
---	--

(2) 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現するための取組み

ア マネジメント体制、組織形態

<p>[取組内容]</p> <p><u>責任体制の明確化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループごとの業務分担表を共有</li> <li>●意思決定機関 <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループ長会議定例化</li> <li>●子どものアトリエ企画運営会議開催</li> </ul> </li> <li>●副館長の配置</li> </ul> <p><u>効率性と総合力が発揮された事業展開のための</u></p>	<p>[達成指標]</p> <p>□変更後2週間以内に共有</p> <p>□隔週</p> <p>□1回/年</p> <p>□上半期</p>
---	---



<p><u>事業部門と経営部門連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●横断的な情報共有のためにチームリーダー連絡会を定例化</li> </ul> <p><u>横浜市との政策協働や美術館の社会的役割の拡大に対応した組織</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育プロジェクトチーム増員</li> <li>●ビジターサービスチーム新設</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/>隔週</p> <p><input type="checkbox"/>4月</p> <p><input type="checkbox"/>4月</p>
--	---

イ 専門人材育成

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●適材適所の人材配置</li> <li>●横浜トリエンナーレにむけた現代美術専門人材など専門人材育成</li> <li>●企画展事前レクチャーやホスピタリティ研修など専門館にふさわしい人材育成</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人事評価制度の導入</li> <li>■横浜トリエンナーレや施設管理に対応する外部委託人材の活用</li> </ul> <p><u>当館職員の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■日常的なOJT</li> <li>■当財団全体の各種研修に参加</li> <li><input type="checkbox"/>企画展事前レクチャー 1回/企画展</li> <li><input type="checkbox"/>接遇研修 1回/年</li> <li><input type="checkbox"/>安全・安心な施設運営維持の訓練・研修 1回/年</li> </ul> <p><u>専門職の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■学芸員：美術品保全、コレクション形成、展覧会立案実施、横浜トリエンナーレ実施、専門分野の確立の観点から育成</li> <li>■エデュケーター：若手職員の発想力を重視すると共に、それぞれの専門性を活かし、現代作家の動向、様々な対象者、鑑賞活動と創作体験の関連、他施設、他団体との連携、市民協働、社会貢献等を常に幅広く視野に入れ活動を展開する柔軟なコーディネート力と指導力を重視し育成</li> </ul>
--	---

ウ 自主財源の開拓

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ファンドレイジングとして、当館でおこなわれる広報活動、教育プログラム、子どもの育成活動を企業と協働で実施する機会《Heart toArt》継続</li> <li>●駐車場の各種割引サービス実施</li> <li>●財団マーケティング戦略委員会への参加</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>目標：1社</li> <li><input type="checkbox"/>割引制度 3種</li> <li><input type="checkbox"/>2回/月</li> </ul>
--	--

## 7 その他の計画

(1)政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現するための取組み

### ア 政策協働による指定管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●政策協働実現のため、政策経営協議会参加</li> <li>●一連のプロセスの透明性を高めるため、指定管理者選定評価委員会出席</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■政策経営協議会参加と各種意見の事業への反映</li> <li>■指定管理者選定評価委員会出席と各種意見の事業への反映</li> </ul>
---	---

### イ 当財団独自の事業評価制度の運用

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●当財団全体の経営を評価する団体評価</li> <li>●施設やグループごとの年度を通じた施設等組織評価</li> <li>●事業ごとの個別事業評価</li> <li>●横浜美術館内のPDCAサイクル</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>進捗状況報告 1回/年 ※評価は協約期間終了時に実施</li> <li><input type="checkbox"/>2回/年</li> <li><input type="checkbox"/>1回/事業</li> <li><input type="checkbox"/>指定管理者モニタリング 1回/月</li> </ul>
--	---

### ウ 「横浜市文化施設指定管理業務評価システム」による評価

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●横浜市が委嘱する選定評価委員会による指定管理施設に対する外部評価の実施</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>1回/年の評価において各評価軸項目の平均B(=目標通り達成できている)以上</li> </ul>
--	---

### エ 年報の発行

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●長期的な振返りの基礎と事業活動の対外的な説明のための年報発行</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■平成25年度年報の翌年度上半期中の発行を目指し準備実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月 記載内容の精査</li> <li>・3月 デザインの確定</li> </ul> </li> </ul>
---	---

## 8 収支計画

(単位：円)

[取組内容]	[達成指標]
<u>収入および支出</u>	<input type="checkbox"/> 収入合計 1,141,097,000
<u>収入</u>	指定管理料収入 700,000,000
・自主事業の実施と安全な施設の維持管理に必要な原資を獲得	利用料金収入 71,596,000
・横浜市の文化政策への長期的な協働に必要な適正額を算出し反映	事業収入 265,064,000
	助成金等 13,020,000
	その他 91,417,000
<u>支出</u>	<input type="checkbox"/> 支出合計 1,141,097,000
・効率的な自主事業実施と施設管理維持実現	人件費 354,194,000
	事務費 44,006,000
	負担金 815,000
	管理費 238,500,000
	事業費 422,169,000
	その他支出 81,413,000
<u>平成 25 年度</u>	
<u>基幹事業</u>	
・岡倉天心生誕 150 年、没後 100 年記念事業	
<u>特徴</u>	
・メディア展を二つ開催し集客を見込む	
・東南アジアの現代美術を紹介する展覧会をシンガポール美術館と提携し実現	
・企画展の年間入場者数は 35 万人、事業費は 3 か年で最も高い年度	
・コレクション展 36 万 5 千人を含めた展覧会の入場者数は 71 万 5 千人	

## 9 留意事項

[取組内容]	[達成指標]
●保険及び損害賠償の取扱い	■業務の基準に基づいた適正な取扱い
●法令の遵守と個人情報保護	<input type="checkbox"/> コンプライアンス窓口の設置
●情報公開への積極的取組	<input type="checkbox"/> 個人情報保護研修 1 回/年
●市及び関係機関等との連絡調整	<input type="checkbox"/> 財団事務局に情報公開窓口を設置
●その他	■横浜市や関連機関との連絡緊密化
1) 許認可及び届出等	■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施
2) 施設の目的外使用	
3) 人権の尊重	
4) 近隣対策	
5) 重要書類の管理	
6) 行政機関が策定する基準等の遵守	
7) 法令の制定及び改正への対応	

【自主事業一覧】

	開催 時期	事業名	会場	事業内容
1	4月   6月	Welcome to the Jungle	企画展 示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンガポール美術館と共同企画し、東南アジアの諸国や地域の近年の社会的・政治的な問題を主題にした東南アジアの作家の現代美術を取り上げる展覧会</li> <li>・同館のコレクションを核に双方のキュレーターとの協働で構成された、国際交流、コラボレーション事業として実施 (56日間)</li> </ul>
2	7月   9月	プーシキン美術館 展 フランス絵画 300年	企画展 示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア屈指の規模と収蔵内容を誇る、モスクワのプーシキン美術館のコレクションの中核をなす、印象派の作品を含むフランス絵画の傑作を体系的に紹介する展覧会</li> <li>・朝日新聞社との共催により、幅広い広報展開、多くの集客による地域の賑わい創出を実現 (63日間)</li> </ul>
3	10月   11月	岡倉天心生誕 150 年記念、没後 100 年/『國華』創刊 125周年記念事業 横山大観展 良き 師、良き友一紫紅、 未醒、芋銭、溪仙	企画展 示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正時代に焦点を当て、横山大観が日頃親しく交わった個性豊かな画家たちとの相互関係に着目することにより、横山大観の、明治時代には見られなかった新感覚溢れる作品が生み出された背景を探るとともに、その魅力を伝える展覧会</li> <li>・横山大観記念館の協力の下、協同で調査研究したコラボレーション事業として実施。また共催者である朝日新聞社と対等出資して十分な予算規模を確保し、広報効果を高め集客を実現。 (44日間)</li> </ul>
4	12月   2月	岡倉天心生誕 150 年記念、没後 100 年/『國華』創刊 125周年記念事業 生誕 140年記念 下村観山展	企画展 示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市ゆかりの日本画家・下村観山の生誕 140 年を記念し、調査に取り組み、代表作を含む館の独自企画としての回顧展</li> <li>・「天心サミット」と連携し、相互広報実施 (53日間)</li> </ul>
5	4月	横浜美術館コレク ション展	常設展 示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵作品を常設展示室及びその周辺を用いて展示</li> <li>・3期実施し、各期約 250 点を展示予定</li> <li>・特集展示では、一括寄贈を受けた、賛美小舎 上田コレクションの紹介、サカタのタネ創業 100 周年に連動した坂田コレクション紹介および大佛次郎記念館と連携した展示、明治の洋画展示を実施</li> </ul>

6	9月   3月	若手作家支援事業	グラン ドギャ ラリー 他 横浜美 術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストを独自の視点で選出し、アートギャラリーやグランドギャラリーでその作品を紹介</li> <li>・将来の横浜トリエンナーレの作家選定に資することを前提に、横浜トリエンナーレ組織委員会と連携</li> </ul>
7	4月   3月	子どものアトリエ 「学校のためのプログラム」	子ども のアト リエ	<p>学校教育、教師と連携したプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形プログラム(横浜市内の小学校、幼稚園・保育園、養護・特別支援学校・区毎の個別支援学級合同、各種学校を対象に実施)：90校/年</li> <li>・鑑賞プログラム(小学4,5,6年生を対象に実施)：4校/年</li> </ul>
8	4月   3月	子どものアトリエ 「個人の造形プログラム」	子ども のアト リエ	<p>幼児・児童を対象にワークショップを中心とした体験型のプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわく日曜造形講座 1講座3回、11講座</li> <li>・わくわく一日造形講座 6講座(うち、子ども対象鑑賞サポート2講座含む)</li> <li>・夏休み造形講座 1講座3回、3講座</li> <li>・長期日曜造形講座 1講座6回、2講座</li> </ul>
9	4月   3月	子どものアトリエ 「親子のフリーズオン」	子ども のアト リエ	<p>粘土、えのぐ、紙工作のコーナーで子どもたちが保護者と一緒に造形に親しめるプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の性格も併せ持つ。</li> <li>・市民ボランティア、インターンなどとの協働で運営。</li> </ul>
10	4月   3月	子どものアトリエ 「指導者育成事業」	子ども のアト リエ	<p>教師のためのプログラム(「春期講座」、「夏期講座」)</p>
11	4月   3月	子どものアトリエ 「鑑賞教育事業」	子ども のアト リエ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエ内のショーケースでの展示</li> <li>・年間2テーマ</li> </ul>
12	4月   3月	市民のアトリエ 講座	市民の アトリエ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が美術に親しむためのワークショップ</li> <li>・創作体験を鑑賞につなげるワークショップ</li> <li>・若手アーティストによるワークショップ(15回)</li> </ul> <p>※コレクション展鑑賞ワークショップ 造形体験の取入れ、企画展鑑賞ワークショップ 造形体験の取入れ、大学連携 横浜美術大学と連携したワークショップ、環境啓発事業 横浜みどりアップ・ワークショップ含む</p>
13	4月   3月	市民のアトリエ オープンスタジオ	市民の アトリエ	<p>立体、平面、版画各室でアトリエ環境を考慮し、場を共有し参加者が、自主的に制作に取り組むプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員は適切なアドバイス行う。</li> </ul>

14	4月   3月	横浜美術館コレクション鑑賞プログラムを含む普及事業	横浜美術館	<p>コレクションの鑑賞を深める機会を多くの方に提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャラリートーク <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャラリートーク：10回/年</li> <li>・手話通訳付きギャラリートーク：1回/年</li> </ul> </li> <li>・学芸員や収蔵作家によるレクチャー：1回/コレクション展</li> <li>・鑑賞ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚に障がいのある人とない人が共にたのしむ鑑賞会：1回/コレクション展</li> <li>・（造形体験の取入れ：1講座/年）</li> <li>・敬老フェスタ(仮称)：1回/年</li> </ul> </li> <li>・鑑賞サポートシートの作成：5作品/年</li> </ul>
15	4月   3月	横浜美術館企画展鑑賞プログラムを含む普及事業	横浜美術館	<p>企画展の鑑賞を深める機会を多くの方に提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャラリートーク：2回/企画展</li> <li>・講演会等：平均2回/企画展</li> <li>・鑑賞ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞ワークショップ：1回/企画展</li> </ul> </li> <li>・夜の美術館でアートクルーズ：2回/企画展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・（造形体験の取入れ：1講座/年）</li> </ul> </li> <li>・鑑賞サポートツール <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子向け「鑑賞サポートシート」作成：1回/企画展</li> <li>・音声ガイド作成：2回/年</li> </ul> </li> </ul>
16	4月   3月	子ども対象鑑賞サポート	横浜美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人向け鑑賞講座：2講座/年（ほか2講座は子どものアトリエ「個人の造形プログラム」）</li> <li>・（学校プログラムと連動した鑑賞プログラム：4校/年）</li> </ul>
17	4月   3月	美術館のアクセシビリティ向上の取り組み	横浜美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（視覚に障がいのある人と一緒につくる収蔵品鑑賞サポートプランの作成（「平成25年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」申請予定）：1プロジェクト/年）</li> <li>・福祉関係機関、NPO法人等と連携した、コレクション鑑賞サポート事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・（NPOとの連携による手話通訳付きギャラリートークの開催：1回/年）</li> <li>・福祉機関との連携による、鑑賞パートナー向けバリアフリー研修の実施：1回/年</li> </ul> </li> </ul>
18	8月	夏休み子どもフェスタ2013	横浜美術館	<p>教育普及グループの他チーム、学芸グループのコレクション展チームと連携して行う、夏休み期間中の小・中学生に対する鑑賞教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校連携事業、ボランティア育成事業、及び次世代人材</li> </ul>

				育成事業と連動しながら実施
19	4月   3月	市民協働 ボラン ティア育成事業	横浜美 術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエ親子のフリーゾーン運営ボランティア育成：約30人/年</li> <li>・美術情報センター運営ボランティア育成：10人/年</li> <li>・鑑賞パートナー(鑑賞サポート事業を支え、様々な来館者とともに鑑賞の喜びを分かち合うボランティア)育成：20人/年</li> </ul>
20	7月 中旬   7月 下旬	次世代人材育成事 業 ②横浜美術館 塾 博物館実習	横浜美 術館	学芸員資格取得を目指す学生を中心に、アートマネジメントに関心の高い市民もふくめた博物館実習
21	4月   3月	学校連携事業	横浜美 術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートティーチャーズ・デー：1回/企画展、1回/コレクション展</li> <li>・夏休み子どもフェスタにおける教師ボランティア受入：10人/年</li> <li>・横浜市芸術文化教育プラットフォーム受入：2回/年</li> <li>・大学連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・(横浜美術大学と連携したワークショップ：2講座/年)</li> <li>・城西国際大学と連携した展覧会ウェブサイト構築：6回/年</li> </ul> </li> </ul>
22	4月   3月	次世代人材育成事 業 ① インターンシップ の導入	横浜美 術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエ インターンシップ：約5人/年</li> <li>・大学生による職場研修：約15人/年</li> <li>・保育士、教師を対象とした研修：随時</li> </ul>
23	4月   3月	横浜美術館コレク ションフレンズ	横浜美 術館	市民の皆さんとの双方向的な交流をはかりながら、収蔵作品の保存と展示にかかる経費を支援してもらうプログラム
24	4月   3月	美術作品の管理	-	<p>市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵庫の満杯状態を改善するための新蔵置方法提案</li> <li>・収蔵作品台帳をもとにした収蔵品目録の印刷物を作成</li> </ul>
25	4月   3月	横浜美術館コレク ション収集調査	-	<p>横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の中期重点方針見直し</li> <li>・3か年ごとの収集計画策定</li> <li>・横浜トリエンナーレの機会を活かした、話題性のある現代美術作品の収集提言</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部検討委員会、横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会を経た適正な収集方法</li> </ul>
26	4月   3月	美術情報センター	美術情報センター	<p>これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展等事業連動した特集公開</li> <li>・横浜トリエンナーレ情報集積とアーカイブ化</li> <li>・映像資料公開</li> </ul>
27	4月   3月	横浜美術館の広報	横浜美術館	<p>媒体関係者との交流会と意見交換会：1回以上/年</p>
28	4月   3月	情報配信	横浜美術館	<p>ウェブサイトへのアクセスも横浜美術館へのビジターと捉え、ウェブコンテンツ、ウェブサイトでの視聴覚プログラムの配信、メルマガやオンラインショッピングなどを通じて来館を促す手法開発</p>
29	4月   3月	近隣アートプログラム	横浜美術館	<p>「近隣から始まる来館者の拡大」を目標に、「近隣アートプログラム」を実施：4回/年</p>
30	4月   3月	広報ツールの開発事業	横浜美術館	<p>横浜美術館を国内外に広報周知するために、さまざまなアートシーンやコンベンション会場などで配布するオリジナル・グッズを制作</p>
31	4月   3月	賑わい創出イベント事業	横浜美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会の開催にあわせた、みなとみらい21地区に貢献できるイベント開催：2回/年</li> <li>・フォト・ヨコハマ、クラシック・ヨコハマなど横浜市が推進する事業との連携：随時</li> </ul>
32	4月   3月	ビジターサービス事業	横浜美術館	<p>お客様の高い満足度をめざした運営、様々な来館者ニーズへ対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点確立</li> <li>・おもてなし <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティの向上(新サービス開発)</li> <li>・アメニティの向上</li> <li>・アクセシビリティの向上</li> <li>・来場者コミュニケーション</li> </ul> </li> </ul>
33	4月   3月	施設利用促進事業	レクチャーホール	<p>レクチャーホール貸出の利便性向上：稼働率 70%</p>
34	3月	子どものアトリエ「企画運営委員会」	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校連携が子どものアトリエの活動の柱となっているため、市教育委員会、市幼稚園協会、市保育園園長会などの会長職を委員に迎え、運営についての報告と意見交換</li> </ul>



				<p>する会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエの情報公開の位置づけ</li> </ul>
35	4月   3月	展覧会の企画調査	-	テーマを設定し、コレクションおよび企画展のための調査研究実施
36	4月   3月	横浜美術館研究紀要発行	-	紀要発行、関係機関に配布
37	4月   3月	コレクションによるパッケージ展	-	国内外の他美術館へのコレクションパッケージ展巡回を実現すべく準備
38	4月   3月	駐車場利用促進事業	駐車場	駐車場の各種割引サービス実施：割引制度 3種
39	4月   3月	特別鑑賞会事業	横浜美術館	横浜市のコンベンション誘致に協力したレセプション会場などとしての活用：随時
40	4月   3月	Heart to Art	-	ファンドレイジングとして、当館でおこなわれる広報活動、教育プログラム、子どもの育成活動を企業と協働で実施：1社
41	4月   3月	企業広報誘致イベントの開催	横浜美術館	横浜美術館の施設を、企業の広報やマーケティング活動に利用してもらい、横浜美術館の周知に役立てる事業
42	4月   3月	撮影／フィルムコミッション協力	横浜美術館	当館の特色ある概観や敷地を有効活用したフィルム・コミッションへの積極的な協力：随時
43	4月   3月	賑わい創出イベント事業（収益）	カフェ	<p>カフェにおいて、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会と連携した限定メニューの開発</li> <li>・カフェ機能を活用した観客誘致事業や近隣施設連携事業などを展開</li> </ul>
44	4月   3月	ミュージアムショップの運営	ショップ	<p>ミュージアムショップにおいて、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会関連商品、当館ならではのユニークな商品提供</li> <li>・遠方のお客様を中心としたニーズに応えるためのオンラ</li> </ul>

				<p>インショップ運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインショップ活性化のためのホームページ活用</li> <li>・季節に合わせた特設ウェブサイトを設置</li> </ul>
45	4月   3月	駐車場の運営	駐車場	当館利用者に対して普通車、バスの有料駐車場サービスを提供
46	4月   3月	カフェの運営	カフェ	カフェサービスを提供
47	4月   3月	横浜トリエンナーレ プレ事業	横浜美術館	<p>横浜トリエンナーレ事業を横浜美術館の発信力の柱のひとつとして実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流に資するシンポジウム：1回/年</li> <li>・現代美術と市民協働に関するワークショップ：1回/年</li> <li>・国内外調査・研究、ネットワーク形成：海外6回程度/国内20回程度</li> </ul>
48	4月   3月	専門館連携	横浜美術館	<p>子どもへの対応など、財団内専門館施設の共通課題について、横断的に実施し、特定ジャンルからパイロット的に実施するなど、総合的に寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・ウィークの開催：5公演/年にむけて企画立案</li> <li>・「プーシキン美術館展 フランス絵画300年」にて横浜みなとみらいホールと連携した関連事業検討：1回/年</li> <li>・岡倉天心生誕150年・没後100年記念事業にて横浜能楽堂などと連携した関連事業検討：1回/年</li> </ul>
49	4月   3月	フラットなコミュニケーション	横浜美術館	<p>美術館の運営や事業を市民とのフラットなコミュニケーションを通じて展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員OB、観光業OBなどとの連携によるおもてなしの心育成</li> <li>・横浜シティガイド協会などとの連携による横浜観光促進</li> <li>・原三溪生誕150年に向けた原三溪研究会との共同研究：1回/月</li> </ul>
50	4月   3月	地域社会や市民生活に貢献する取り組み	横浜美術館	<p>地域社会や市民生活に貢献する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（環境啓発事業 横浜市環境創造局との連携による、横浜みどりアップ・ワークショップ開催：1講座/年）</li> <li>・病院・福祉施設へのアウトリーチ：1回/年</li> <li>・企業連携プログラム《Heart to Art》によるアウトリーチ：2回/年</li> </ul>